

項 目	7 水害への対策について (2) 流域治水プロジェクトにおける田んぼダムの取組
答弁者	農林水産担当部長
質問要旨	<p>台風 15 号による大雨は、12 時間降水量で観測史上最多となる雨量を観測し、県内に大きな被害をもたらした。水害や土砂災害の激甚化、頻発化に対し、河川を改修し、被害を軽減していくことは重要であるが、河川の改修には、多くの年月と予算が必要である。</p> <p>「流域治水」の一環として、「田んぼダム」の取組が、全国的に広がりつつある。田んぼダムは、水田の排水口に調整板を取り付け、水田に降った雨を一時的に貯える機能を強化することで、周辺や下流域の浸水被害を低減する取り組みである。</p> <p>田んぼダムの取組が県内各地に広がれば、河川を補完する治水対策の一つとして、既存の水田を活用した、即効性の高い有効な方策になると考える。そこで、流域治水の一環としての、田んぼダムの取組について、県の所見を伺う。</p>

<答弁内容>

次に、水害への対策についてのうち、流域治水プロジェクトにおける田んぼダムの取組についてであります。

集中豪雨等による水害が頻発し激甚化する中、水田の雨水貯留機能を活用した田んぼダムの導入は、周辺の農地や集落、下流域の浸水被害リスクを低減する取組として、大変有効であると認識しております。

このため、県では本年度、導入効果を定量的に検証するため、浜松市や袋井市、三島市の 13ha の水田を実証ほ場として、流出量の削減効果や農作物への影響等の効果分析を実施いたしました。

今後は、こうした成果を基に、年度内に、田んぼダムの導入効果や運用マニュアルを取りまとめ、地域住民や農業者、土地改良区等に情報提供し、地域内の理解促進を図りながら、流域治水プロジェクトと連携した普及拡大に取り組んでまいります。

また、田んぼダムの取組には、農業者の負担軽減が不可欠であることから、排水柵や畦畔の改修等の基盤整備を進め、作業の省力化を図るとともに、多面的機能支払交付金を活用して、地域全体で農地を保全する共同活動を支援してまいります。

県といたしましては、農村資源を有効活用した田んぼダムの取組を促進し、農業の持続的発展と流域全体の防災・減災力の強化を目指してまいります。

以上であります。